

平成28年度ユネスコスクール年次報告書

報告期間：平成28年4月～平成29年3月

1. 学校概要

学校名 北海道阿寒高等学校

種別 保育園・幼稚園 小学校 小中一貫教育
 中学校 中高一貫教育 高等学校
 教員養成 技術/職業教育
 特別支援学校 その他（ ）

所在地 〒085-0213
北海道釧路市阿寒町仲町2丁目7番1号

E-mail akan-z0@hokkaido-c.ed.jp

Website http://www.akan.hokkaido-c.ed.jp/

児童生徒数 男子 33名 女子 31名 合計 64名
 児童・生徒の年齢 15歳～18歳

2. 実施活動（複数選択可）

- 地球規模の問題に対する国連システムの理解
- 国際理解
- 世界遺産
- 平和・人権
- 環境
- 気候変動
- 生物多様性
- エネルギー
- 防災
- 食育
- 伝統文化
- そのほか（異年齢交流 地域とのつながり等）

3. 活動内容

(1) 1年間の主な活動内容について記載願います。

1 環境学習・郷土愛の育成 ―「地域巡検」―

阿寒の自然を題材に、地域学習をふんだんに取り入れ、地域の自然や文化を愛する生徒の育成に努めている。地歴公民科・理科が中心となって実施しており、今年度で19回目になる。毎年阿寒の自然や、歴史、文化について学習し、現地に行って体験した後、レポートとしてまとめている。特に1学年では釧路湿原国立公園、2学年では阿寒国立公園の2つの国立公園について学習する。

1学年では釧路湿原国立公園内で鳥獣保護センター、北斗遺跡、釧路湿原ネイチャーセンターの協力をいただき、湿原や生態系、擦紋文化について主に学習している。また、今年度は久著呂川に赴き、浸食問題について理解を深めた。

2学年では阿寒湖畔で阿寒湖畔EMCやNPO法人阿寒観光協会まちづくり推進機構の協力のもと、植生や生態系、火山や阿寒湖群の形成の仕方について学習している。今年度は特定外来種に指定されている、ウチダザリガニの駆除・調理体験を行った。また、一昨年には阿寒湖畔のアイヌ文化についての学習をイコロシアターで人形劇を通して学ぶなど、文化的な学習も行っている。



2 『シカ肉プロジェクト』を実施

3年生の選択科目「フードデザイン」において、生徒6名が複数回シカ肉を利用した調理実習を実施した。阿寒地域では増えすぎたシカと人間との共存が課題であり、シカ肉を加工する地元業者と協力して材料を仕入れ、生徒たちは栄養素や調理方法を学んだ。シカ肉をカツにしたシカツ丼やシカカレー、シカ肉の生姜焼き、鹿オムライスなど全8種類を調理した。学んだ内容は本校の学校祭にてポスターの形にまとめ、外部に発信した。



3 『北海道高等学校ユネスコ研究大会』への参加（生徒会）

札幌市の北海商科大学で行われた「2016年度青少年国際交流の集い第44回北海道高等学校ユネスコ研究大会」に生徒会執行部の生徒2名が参加した。

テーマである「ユネスコ活動とボランティア活動」について信州大学教育学部准教授安達仁美氏による講演を聴き、読み書きができない地域の子もたちに夢を与えるユネスコ世界寺子屋運動について知るなど見識を広げた。

その後、シンガポール、中国、ドイツなど7カ国の外国人のパネリストの方々と、学校行事などの文化の違いについて意見交換を行い、多文化理解を深めた。

1日目の終わりには経験交流会を行い、他校の生徒や外国人の方々と軽食を取りながら日本と海外の違いや、学校の特色について交流した。

2日目は、午前中に「日本とネパールを結ぶ」と題された講演を聞き、国際交流・国際支援にボランティアが果たす役割を理解することができた。午後からは、「ユネスコスクールの生徒の発表」「異文化理解の意義」「国際ボランティアの大切さ」の3つの分科会に分かれて、昼食をとり



ながら学びを深めた。

参加した生徒からは、「他校の生徒は自校の取り組みに誇りを持ち、ユネスコスクールとしての役割を理解していることに驚いた。今後は私たちもユネスコスクールとしての自覚を持って活動しなければならない。」と感想を述べた。他校のユネスコスクールとしての考え方や、活動について知ることができたため、今後本校の生徒会活動や行事に積極的に取り入れていきたいと考えている。

4. 書き損じはがきの募集（生徒会・全校生徒）

1月下旬～2月上旬にかけて、生徒会執行部の生徒が、通常よりも早く登校し、書き損じはがき回収を生徒玄関前で呼び掛けた。回収箱の設置も合わせてはがき33部と切手2枚ほど回収できた。年度内での突発的な企画だったため、「ユネスコ世界寺子屋運動」には参加できなかったが、今後は回収したはがきを蓄積し、「ユネスコ世界寺子屋運動」に参加する予定である。

5. 台湾見学旅行（2学年）

10月24日～28日の5日間、2学年23名が台湾での見学旅行を実施した。

事前学習として、台湾の文化を知るための授業や中国語の授業を受けた。中国語の学習では、白糠高校との学校間連携事業により、中国語講師の派遣を受けて実施した。数字の教え方や簡単なあいさつなどを学んだ。

旅行当日は台湾市内の観光をした。また、台北市の中正高校30～40名ほどの高校生との交流（折り鶴体験、よさこい演舞披露）と、地元大学生を観光ガイドとして迎えた自主研修をするなど、単なる観光だけではなく、現地の人との交流も果たした。研修を通して、海外にまで視野を広げる生徒や、異文化理解ができる生徒の育成に寄与できたと考えられる。



6. 幼小中高4校の連携行事（全校生徒）

阿寒町内の幼稚園、小学校、中学校、高等学校の全校生徒が交流や地域への貢献活動を実施している。7月には全園児、全児童、全生徒合計312名が20名程度、16グループをつくり「ジャンケンリレー」「タッチドーナツ」などをして交流した。高校生がグループリーダーを担当し、園児や児童の自己紹介や各活動を支えた。

また、9月には小学校、中学校、高等学校の児童・生徒約60名が国道240号線沿いに立って、交通安全を呼び掛ける交通安全街頭啓発を実施した。児童・生徒が持った旗は、幼稚園児が活動の中で作成したもので、園児が直接各学校に届けてくれた。国道240号線、通称まりも国道は、高速道路開通とともに交通量が増加したとともに、事故も多発している。こうした現状を踏まえ、町内の3箇所立って「交通安全」や「スピードダウン」を呼び掛けた。実際に沿道に立つ生徒の様子を見て、スピードを落としてくれるドライバーが多く、生徒たちは自分たちの活動に成果を感じているようであった。

10月と2月には、高校生と幼稚園児の交流する幼稚園交流が設定されている。1回目は園児が高校に、2回目は高校生が幼稚園に赴き、ダンスや雪遊び、昼食を通して交流する。いつもは教わる側の高校生が、園児の手を取って援助するなどの場面を通して、高校生らしさとは何か、地元にいる高校生の役割は何かを学ぶ。家庭科の保育分野で本交流がスタートしており、園児としてお兄さんお姉さんに面倒を見てもらった子どもたちが、高校生になって幼稚園児と交流するまで長期的な活動が続けられている。



(2) 活動時間について（下記から選択して下さい。）

- 通常の授業時間を使用（総合的な学習の時間を含む）
- 時間外活動の時間を使用
- ユネスコクラブの活動として実施
- その他（

）